霊鷲山正法寺は往昔伝教大師の開基にして、山門の別院なり。中興国阿上人住給ひて宗旨を時宗と改む。本堂は釈迦仏を安置す、阿弥陀堂の本尊は歯仏と号す。〔此阿弥陀仏は笑ひ給ふ相好にして、御口よりむかふ歯見ゆる故、世に歯仏の如来と号す〕天照太神宮は本堂の東廊下の上にあり。〔山下の念仏堂は法然上人住給ひて、別時念仏を修し給ふ旧跡なり〕夫国阿上人は大菩提心にして慈悲ふかく、常に伊勢太神宮へ足駄をはきて参宮す。ある時道中に女の骸骨あれば、是を憐て葬通り給へり。太神宮化して上人の心を例給ひ、慈悲心より出し重穢はくるしからずと神勅あれば、やすゝと参宮し給ふ、故に参宮の人は首途のまへ、当寺に参ぬれば忌穢をのがるゝとぞ。当山の坊舎はみな〳〵絶景なり、洛陽の万戸、鴨川大井川の二流、愛宕あらしの峰々、淀山崎の通船まで、書院より坐にして眼の下に遮る、洛中の集会遊筵は此院々を借りて饗応す。

雪の朝霊山と申ところにて眺望を人々読けるに

家　集　たけのぼる朝日の影のさすまゝに都の雪は消みきえずみ　西　行